

会 議 録				
令和7年度第3回 生活支援事業協議体	日 時	令和8年1月27日(火) 14時00分～16時00分	場 所	小金井市役所第二 庁舎8階801会 議室
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出 席 者	委 員	高良委員長(法政大学) 田部井委員(社会福祉協議会) 清水委員(介護事業者連絡会) 尾崎委員(民生委員児童委員協議会) 千田委員(地域活動代表者) 下野委員(地域活動代表者) 鈴木委員(町会・自治会) 第2層コーディネーター 松村氏(小金井きた地域包括支援センター) 中島氏(小金井ひがし地域包括支援センター) 河合氏(小金井みなみ地域包括支援センター) 久野氏(小金井にし地域包括支援センター)		
	事務局	第1層コーディネーター 菊地原氏(小金井市 介護福祉課) 磯端課長 田村係長 木津(介護福祉課)		
傍聴の可否	◎可・一部不可・不可		傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 開会				
2 (1) 報告事項				
① 事業の進捗状況〔資料1〕				
② 令和7年度第5回から第8回生活支援連絡会報告〔資料2〕				
③ 生活支援コーディネーター活動・会議報告(8月分～11月分)〔資料3〕				
④ 令和7年度各地域包括支援センター活動報告				
(2) 検討事項				
地域課題について〔資料4〕				
3 その他				
次回協議体の開催予定				
4 閉会				
1 開会				
2 議題				
(1) 報告事項				
① 事業の進捗状況について				
事務局より資料1を基に説明。				
シニアのための生活に役立つスマホ活用講座やスマホちょこっと相談室の開催報告、お元気サミット・介護みらいフェスで行った生活支援事業の実施後の報告等、その他、サブスタッフ養成講座とお金の管理の啓発についても実施した旨を説明。				

②令和7年度第5回から第8回生活支援連絡会報告〔資料2〕及び③生活支援コーディネーター活動・会議報告（8月分～11月分）〔資料3〕について

資料を基に事務局より説明後、第2層生活支援コーディネーターが地域に根差した活動をしていることと共に、支援する内容が地域ごとに若干異なる旨を共有。

④令和7年度各地域包括支援センター活動報告について

それぞれの第2層生活支援コーディネーターからの活動報告。

（委員長）

初めにきた圏域から報告をお願いします。

（松村委員）

防災についての取り組みについて。

11月開催の「きた包括防災講座」は、地域安全課防災係と弁天通り防災会役員による講話、参加者の8割が地域活動に従事されている熱心な方々で、その場で本町二丁目町会長と第二小学校地域コーディネーターの方が初めて出会い、開催予定の第二小学校防災授業の周知について本町二丁目町会長が全面協力するなどの連携が始まる。3月にも同じ形で開催を予定。

また毎回の講座の周知を小金井市観光まちおこし協会の突然news小金井という動画を作って、SNSを通じて発信。今回の動画には地域安全課の他、弁天通りの方にも登場いただき、市職員と包括と地域の方が一緒に防災について紹介をするとともに、自治会町会の活動紹介をする機会となる。

また防災を通してできた自治会町会等との人脈を同法人の特養ヨハネホームの防災訓練の開催に活用。

今年度から特養ヨハネホームで地域住民と連携し防災訓練を始めた。10月末の施設見学と消火器訓練には、桜町自治会の理事会を中心に10名ほど参加があり。また来月にも開催予定。その他、普通救命講習会に地域の防災会議で中心的に活動している方々や、さくら体操自主グループのリーダーの方々を無料招待する機会を設けた。

来年度以降も他団体との繋がりを生かして、地域の防災力向上のために新たな繋がりを模索したい。

もう1点は社会福祉協議会と連携について。

これまで権利擁護センターとは、認知症の方の成年後見制度利用に向けて係りがよくあったが、今年度は生活困難な方の支援のため、福祉総合相談窓口の地域福祉コーディネーターの方と連携するケースが増えてきた。

現在も巨額の詐欺被害に遭った後に一人閉じこもりがちになった方の支援のため、今後個別ケア会議を開催する予定。

地域福祉コーディネーターの方にも協力をいただく方向で動いている。

他にも包括で対応しているケースでは、子供世代がひきこもりで精神疾患などを抱えている方の課題解決のために、まずは包括とその親御さんとの関係を少しずつ作りながら、地域福祉コーディネーターの方に介入いただくタイミングを見計らっているケースが幾つかある。

今後も地域福祉コーディネーターの方と連携するケースは、ますます増えると思うので、今後同じイベントでの啓発や、或いは新たな地域資源開拓が一緒にできるといいと考える。

（委員長）

きた地域包括支援センターでは防災活動を継続的に行い、着実に連携ができている。

また最近では複合的な課題を抱えている家庭が増えてる一方で、一人暮らしの高齢者が増えていることもあり、そういった中では社協との連携はとても必要なことだと思う。包括に限らず地域の方たちと社会資源を作るとか、啓発していくことも必要なことなので、とてもいい連携だと思う。

何かご質問やご意見があればお願いしたい。

(鈴木委員)

二丁目会でも防災活動をやっているが、今まで包括との連携は考えてなかったのので、来年度はぜひお願いしたい。

(委員長)

次はみなみ圏域の活動報告をお願いしたい。

(河合委員)

年1回開催している光明第二保育園の光の子フェスタと年3回開催されている貫井の道草市に継続して参加している。

道草市ではスマホサポーターによるスマホ相談会と、人探しゲームを実施。

令和7年4月にはみまもりあいアプリという認知症高齢者検索アプリを活用。10月の開催時には実際に見守りシールを認知症の方の衣類等に事前に貼りつけておき、その方が迷った場合を想定し、その見守りシールを貼り付けた方を見つけて声掛けすることで認知症の方を捜索できる事業を活用し、見守りシール事業の周知をした。

10月は参加経費を30名分用意し27名の参加があった。

12月は30名分すべての参加があったので、徐々に参加率が上がっている。

貫井の道草市は子供世代や孫世代の方が多く、多世代へ包括の周知や認知症高齢者を探す手段のみまもりあいアプリと見守りシール事業の周知をした。また来年度の開催についても参加する予定。

また環境政策課で行っているみんなの公園プロジェクトの参加や、アートを通して障がい児支援を行う団体などで障害児の親御さんたちと繋がることができ、年4回発行している包括ニュースに記事を掲載したり、裁縫ができる地域の高齢者を紹介したりと、高齢者分野に限らない関係づくりが出来た。

さらに、スマホサポーター協力のもと通いの場の継続支援として、出張スマホ相談会を2つの団体で行った。

昨年夏ごろからは、特に所内の認知症地域支援推進員と協力をして認知症カフェに、手工芸ができる地域住民を招き、ボランティアをしている参加者が中心となって、絵手紙を作成しお元気サミットで掲示する等の協力連携する機会を多く持った。今後もより一層協力して様々な活動を行っていく予定。

(委員長)

様々なイベントを活用して高齢者のみならず、多世代の方との交流を行うことは、ますます今後必要になってくる。この後の地域課題の検討のヒントとなると思う。

それではひがし圏域の報告をお願いしたい。

(中島委員)

高齢者住宅にあるコープくりのみの定例懇談会で金銭管理の啓発について。

参加者は8名で、お金の管理パンフレットを基に備えについて共有をした。

コープくりのみでは入居者同士の繋がりがあり、ちょっとした困り事について日頃から助け合っているという話だが、その繋がりがあっても解決できないお金のことについて考える機会になった。

次に、10年前にサロン立ち上げに携わったお隣さんカフェについて

お隣さんカフェは月1回ゲストを呼んで催しを企画しているが、今回10周年ということでひがし包括をゲストとして呼んでいただいた。

テーマは包括の紹介として、10周年というお祭りムードにふさわしく堅苦しくない楽しい会になるよう主催者やボランティアの方と話し合いを重ねた。

「ひがし包括へ行こう」と題して、ひがし包括の施設と職員の紹介動画を作成し上映した。また実際に寄せられる相談をボランティアの方と寸劇方式で紹介し、最後はボランティアの方と一緒に練習したダンスを披露し大賑わいの会となった。お隣さんカフェのボランティアの方と打ち合わせやダンスの練習を行うことで関係性構築の機会となった。

あと昨年8月下旬から9月と今年1月から2月にかけて東センターの空調が不調になり閉鎖することになった。東センターで活動をしている各団体に連絡をしたところ、活動を休止したり代替りの集会施設について相談をされる団体もあった。

応援ブックの作成のために集会施設の情報を集めているが、開放スペースとして広くない場所が多く、ポッチャや人数が集まって行うさくら体操を行う場合には広さが十分でないため、資源を探していく必要性を感じている。

(委員長)

お隣さんカフェが10周年になるということで、立ち上げから継続支援できていることが素晴らしい。

また活動場所を探すのが難しいとのことだが、何か集会施設一覧はないのか。

(中島委員)

集会施設一覧や他の場所の情報を伝えるが、広めのスペースがなく活動に適した場所がなかなかない。

(委員長)

公的な集会施設以外で、一時的に借りられる場所も探さないと難しい気がする。

例えば学校等の活用としては私立学校や以前に活用していた石材店の空きスペースとかの民間の施設等を、一時的に活用することも視野に入れてはどうか。

また、その場所を貸す側にとっても、何らかの利益があればいいと思うが。何か思い浮かぶところがあれば教えてほしい。

(千田委員)

質問してよろしいか。

それぞれ今3つの包括の報告を伺いそれぞれの特徴があると思ったが、その中でひがし包括が関わっているお隣さんカフェは立ち上げから支援をしているのか。

(中島委員)

そうだ。10年前の立ち上がる際にお手伝いした。

(千田委員)

シニアSOHO小金井会員の関係者がやっているもので、一度行こうと思っているが割と混んでいると聞いている。結構、参加者が多く来るのか。

(中島委員)

もう毎回予約でいっぱいになっている。

(千田委員)

もう1つ、活動報告の中で料理クラブたちばなについて伺いたい。この団体とも何か特別な関係があるのか。

(中島委員)

ある。サービスCの短期集中予防支援事業という3ヶ月間の運動プログラムを終えた方が、地域での事業に移行していく中で、もともと調理師免許を持っていて、ずっとそれで活躍していた方が料理クラブを立ち上げた。地域の事業に移行するところからひがし包括で支援を行っている。

(千田委員)

活動場所は主催者の持ち物か。

(中島委員)

活動場所は公共施設で活動している。

(委員長)

お隣さんカフェは立ち上げから継続支援していて、そこで参加している方も多いということだが、そのようにできた要因は何なのか確認しながら、この後の議論にも活かしていきたい。

それでは最後ににし圏域からの報告をお願いしたい。

(久野委員)

サロンの活動支援と、サロン連絡会のようなことについて報告をする。

ぬくい温ぬくサロンという団体が立ち上がり約半年たった頃に、リーダーから参加者が増えていない事と、リーダー1人に負担がかかっているということで相談があった。

活動内容として少し目玉になるようなものを取り入れるとか、参加者それぞれの方に隣近所の方を誘ってもらい参加者を増やすのはどうかと提案をした。

また、4人いるリーダーの役割について共有することが必要だという事や、サロン開催時にリーダー全員で対応しようと4人全員の都合を合わせようとするため、サロンが定期的に開催できない原因になることも伝えた。

またリーダーが作ったチラシを市民掲示板に貼るのにも、あちこちに貼りたいという思いがあり大変だということがあったので、リーダーばかりがやるのではなく、参加者に協力してもらうことが大事だと伝えた。参加者に自分たちのサロンだという認識を持ってもらい、参加者の協力を求めたところ、男性の方が掲示板貼りに手挙げしてくれたので、今は全部その方をお願いしている。

また、参加者の顔は見知っているが名前がわからないということについて、活動時に簡単な出席表を作っておくと、活動が終わった後も参加者に話ができるのでそんな工夫を提案したところ、開催するにつれて少しずつ参加人数も回復していると聞いている。

こういったリーダーの悩みや相談はどこのサロンにもあると思い、いわゆるサロン連絡会という形で、11月に「サロン活動を継続していく上でのコツ・工夫」というタイトルでサロン4団体での情報交換会を行った。

その中の1人のリーダーは自分自身のやる気を奮い立たせることが一番で、確かに何もやらないのは楽だが何にも始まらない。ちょっと苦しいとかつらくても、やるぞと気持ちを奮い立たせて活動しないとなかなか続かないという意見があった。

別の方はリーダーだけに負担がかからないように、メンバー間で役割分担を明確にすることが大切だという話があった。また町会と集会施設を共有している団体は、町会から集会施設の使用時間について終わりの時間を当初の約束よりも早めて欲しいと言われ悩んでいるということだった。

それに対して最初に取り決めたときの書類を相互で突き合わせて、もう1回話し合った方がいいという意見や、いろんな角度から色んな意見をもらい少し自信がついた

というか後押ししてもらえたという意見があった。

また、活動内容にスマホ相談会も含め開催すると、参加者が多いことが分かった。

この間、色々な活動団体に時々顔出しをするが、最近参加者の様子を見てすごく和やかにやわらかい表情で話をするようになったと見て取れるので、このような関係の活動は温かい気持ちになると感じた。

(委員長)

的確なアドバイスをしたからこそ、結果に繋がったと思った。

この連絡会を開いたことは、個別相談に対応することに加えて非常に重要なことだと思うし、このネットワークができることによって一段と継続して行く動力になると思う。何か意見や質問はあるか。

(下野委員)

ぬくい温ぬくサロンの活動について伺いたい。サロンという形を作ってから内容を決めていく集まりなのか。

(久野委員)

実はこのサロンのある貫井北町5丁目にはもともとサロンがほとんどなかった。そんな中、住民が孤独死していたことがあり、もう少し早く発見できたら良かったということから、住民の方たち自らが包括に相談に来た。

孤独死された方は活動していたが、自分の住んでいる圏域にそういうサロンがなく、ちょっと離れた活動場所に通っていた。亡くなられた際に少し異変はあったようだが分からなかった。そんなこともあって住民の方達から自宅の近くに高齢者が集まれる場所を作りたいという相談があった。

そこでにし包括でその集まれる場所の立ち上げ支援を行った。

その活動内容として、さくら体操なら皆来てくれるかなということで始めた。さくら体操は全体で3つの工程があるが、そのうちの1つだけ行うようにして、そのあとはおしゃべりをすることにした。その都度、さくら体操と他の企画を考え参加者が来やすい雰囲気を作ることにした。

(下野委員)

地域の方々の要望で、家の近くに活動先ができることはいいと思う。

(委員長)

このような居場所やサロンは本当に多種多様で、活動目的があって集まる場合もあれば、誰でも来てもらい自分がやりたいことをやるとか、話をするのが主の活動になっているところもある。

主催者や参加者たちがサロンをどう活用したいのかを合意形成しながら活動をどう支援するかが重要だと思う。

全体として何か意見・質問などよろしいか。

それでは、これより検討事項に移っていきたい。

今年度は、何か新しいものをつくり出すよりも、いままでの様々な成果物や活動として見えてきた成果を再度確認して、それでもまだ残る地域課題についてどう対応するのかを検討してきた。それでは今回の検討事項について事務局ご説明いただきたい。

(事務局)

前回の協議会では、資料4の1ページで、①きっかけさえあれば活動に参加する人たちにどのように働きかけるか、②どうサポートすれば活動を継続していけるのか。③どうすれば活動主体となる人材を発掘できるのか、この3点について検討してき

た。

どれも切り離して検討するのは難しく、前回は地域活動の活性化について検討を行い、自由に意見出しして終わった。

話し合いの中で、活動の見える化や活動に参加するメリット、新しい人を入れるためのアイデア、いろいろな活動を継続していく必要性、地域包括支援センターの周知などの意見が出た。

また、今までは社会参加してない人や、参加したいができてない人に対しての活動に至るきっかけづくりを中心に検討してきたが、今回は少し視点を変えて、活動支援を中心に検討したい。

特に令和6年度、令和7年度のお元気サミットの機会を使い、地域デビューを題材にしたイベントを開催し参加団体からはまた参加したいという意見もいただいている。やはり活動団体として自分たちの活動をアピールする場を必要としていることが分かり、イベントを通して自分の団体をアピールして、それなりの成果もあったということも実感している。

定年退職の時期が遅れるにあたって、地域デビューする方の年代が、70歳、75歳、遅ければ80歳からという方が増えている。これから見えてきた課題としては地域デビューの遅さが課題だとも考えられる。

社会参加し始める年齢が遅いと活動団体の中で、次の担い手を創出する流れが作りづらい。

そこで活動が定着するための支援として、活動団体の中から次の担い手をつくり出していき、お互いの関係性の循環や、参加者から次の活動者への循環をどのように作るのかについて今回検討できればと思う。

具体的に活動定着について、資料4をご覧ください。

資料4の2ページ目の図より、活動が継続されていくと活動が定着する。活動が定着することによって、参加者が増え協力者が増えてくる。

地域の中でその活動が認識され信頼が高まり活動してる人たちの励みになっていく、それが活動継続の原動力になる。

それと同時に活動を促すために市として応援ブックやマップ、地域デビューガイドを活用して、地域で情報発信する支援はもっと必要だと感じている。

単に人をふやすわけではなく、若い世代を取り込んで活動定着させるためにどのような支援ができるか検討していきたい。

次に、活動者と参加者の関係性の循環について、活動の参加者の中からその活動に対する理解や共感が得られると新たな活動者になることが考えられる。

そして活動の中で活動者は参加者からいろんな学びを得られ、次へのスキルアップに繋がっていくと考えられる。

活動者と参加者という関係性だけではなく、お互いがお互いを尊重した関係性が、循環していくことによって、活動が継続していく流れがつけられると考える。

そのような活動の中から良い循環が生まれて、その中から次の担い手をつくるためにどうしたら良いか検討できればと思っている。

(委員長)

1つ質問してよろしいか。

活動者と参加者の関係性の循環というのは、その活動の中での活動者と参加者の関係性の循環ということか。

(事務局)

その通りだ。

(委員長)

そうすると新たな活動を始める活動者が出てくるということは、その参加者の中で新たに別の新しい活動が増えていくこともこの輪が広がることになると思うがいかがか。

また、そうではなくて1つの活動の中で、お互いに参加者と活動者の関係性が常に入れ替わる関係性の構築を指しているのか。

(事務局)

その活動の参加者が自分で何かを立ち上げたいと独立することも1つで、新しい活動が生まれることでもあるし、すでにある活動の中で活動者として次の担い手になっていくというのも含めて2つあると考える。

(委員長)

2つの意味合いであるということで承知した。

このような整理をして資料4の1ページに書いてある成功要因と書かれているものがこれまでやってきた活動だと思う。

実際に、地域デビューガイドや応援ブックなどを作成し、いろんな活動を通してこういった課題に対応してきたが、それでもまだ課題として確認されているのがこの3点になると思う。

先ほど事務局からも説明があったが、今のご時世として退職する時期がどんどん遅くなっていて、ある程度高齢になってから退職をする。

そうすると地域デビューする年齢が遅くなるし、地域デビューをしない方も増えてくる。でも、活動を継続していくためにも新しい方たちに入ってきてもらわなきゃいけないし、活動の活性化をする必要がある。いろんな活動を広く知ってもらうことを考えると、いかに早い段階から地域の活動に興味を持ってもらい、参加してもらうことが必要になる。この3番が割と大きなポイントになると思う。

これは以前からも検討課題に挙がっていて、実際にこの地域デビューガイドの作成に関して市で庁内連携して情報をまとめる活動も実際にやっているが、それらも踏まえてより一段と、今後活動を増すとか継続していくとかいろんな形で巻き込んでやっていくと考えたときに、どういうことができるか意見をいただきたい。

千田委員からまずお伺いしたい。

(千田委員)

活動者と参加者の関係者の循環については、まさに資料に書いてある通りだが、活動団体の内部の話なので、なかなか行政や包括が活動団体の中の活性化をどうするかについては、踏み込みにくい話なのかなと思う。

先ほど事務局から、活動の周知については今までやってきてるので、活動の定着に注目したいという話だったが、活動を定着させることは、世代交代をしていかなきゃいけないので新しい人に参加してもらわないといけない。

これは切っても切れない関係で、うまくこの3つが上手くまとまっていけないといけない。なので周知することも引き続き注力しないといけない。

また地域活動のニーズとシーズを増やすことが大切で、高齢者が活動団体に求めることとそれに答えることが出来る人材を、両方増やしていくことが課題だと思う。

まずニーズを増やすこととして包括支援センターの方に伺いたい、活動したいことが顕在化している場合は活動先を探したい人に、見合う活動を紹介すればいいの

だが、問題は何かをしたいがそれが何なのか分からない又は情報もないという方や、全く活動に対する意識がない方へのアプローチだと思う。

結局は包括支援センターの方が個別に相談対応しながら掘り起すしかない。何の活動をしたいのか、今までの経験を具体的に聞き出しそれにあつた情報を提供する。

そういう方たちに刺激を与える講演会や活動を行うとか、それらの広報を充実させることだと思う。

また、デビューガイドを作つたがその内容の検証していく必要はある。

あと社協との連携も非常に重要だと思う。

またシーズを増やす部分で活動継続の支援として65歳ぐらいで参加したい人も結構いるので、そういう方を対象にプレシニアの講演会を引き続き開催してもらいたい。

その他、他団体との交流会は、自分たちの悩みを他団体の方と集まって話すことで、知らないこともあると思うし、話すことで回避できることもあるのでとても有効だと思う。

あとは市で開催するさくら体操や、スマホ相談会がベースの活動になると思うので、これらの参加者が活動継続につなげていければ、上手く動いていくような気がする。

(委員長)

今おっしゃつたことは重要なことで、まず①番のところでは今まで作つてきたものや活動の検証が必要だと思う。

またバージョンアップはとても重要な考え方で、新しいものをつくれればいいというわけではない。お元気サミットで行つたイベントへの意見を踏まえてより効果に活用できるようにすることも必要だと思うし、地域デビューの講演会の参加者が考えていたよりも高齢の方が多かったという話も踏まえ、より一段とプレシニアの方々に対してリーチしていく方策を考えていかなきゃいけない。

これまで作つてきた応援ブックについても、毎回バージョンアップしてきているので、そういったことをすべてにおいても行う視点が重要だと思う。

それと同時に、どのように活動団体へサポートしていくかについては、実際に活動している千田委員から、他団体との交流会を行うことは活動継続のヒントになるから必要だという話があつたが、これは連絡会として実施すると調整が大変だと思う。これらの対応方法について何かデータベースをつくれなかと考えてしまう。

困っていることに対して対応方法等をまとめた何か参照や共有できるものはないのかと思うが、お互いに会つてしゃべるからいいのかもしれない。

(千田委員)

そう思う。データや紙で情報をもらつても、少しニュアンスが違うなと思う。

(委員長)

確かに、話をするとか話を聞いてもらうことで、より一段とやる気が出ると思う。

いま社協の話が出たが、田部井委員よりこの地域課題の123の検討項目について社協でも行っている事業があるが、特にこの3番の人材の発掘など育成という部分に関して、社協としてこういう検討をしたほうがいいのかなどの意見を伺いたい。

(田部井委員)

社協の人材発掘の場として居場所づくり講座やファシリテーター養成講座を開催し

て、サロン立ち上げについて支援を行っている。あと居場所づくり講座が終わった後にも継続的に支援している。また毎年、卒業生に声かけをして勉強会を開催している中からいろんな活動が生まれることもある。

(委員長)

資料4の成功要因にも養成講座からの繋がりが書いてあるが、市で開催している養成講座について伺いたい。

(事務局)

介護予防講座とサブスタッフ養成講座、あとはスマホサポーター養成講座の3つの講座を開催している。

(委員長)

養成講座も必要だが、養成講座の受講者が講座を終えた後に、次の活動にどうつなげるかが重要だと考える。

その養成講座を終えた方々のその後について追跡をしているのか。

(事務局)

介護予防講座はさくら体操リーダーとして市で用意する会場で包括支援センターと一緒に参加者の管理等を行っている。また養成講座を受けたリーダーがどのぐらい実際に活動しているのかも把握している。

あと、サブスタッフ養成講座では、受講者は講座終了後に受講した介護事業所で一定期間、有償ボランティアができる。概ね2年経つ頃に更新の希望を伺い、1回に限り更新ができる。概ね4年間は継続する方が多く、サブスタッフ活動を継続するかどうかについては、受入れ介護事業所ともに情報共有しながら市で把握している。

スマホサポーター養成講座も講座修了後に活躍の場所を用意しており、市の予算で会場を借りて月に3回の活動が継続的に出来るようにしている。この他、出張相談会も市で依頼を受けサポーターに情報を伝えて活動してもらうように進めている。また一定程度のスマホサポーターのフォローアップもしている。

(委員長)

市で行う養成講座は、受講者がちゃんと活動に繋がっている。

例えば、さくら体操のリーダーにしてもさくら体操だけではなく、その他の活動に広がっていければ、より一段と活動が広がると気がする。

養成講座もやっていて、退職間際の者への働きかけもしてる、いろんなことをしていてもまだ課題があるのだが、もっと検討しなければいけない部分について第二層コーディネーターの方から伺いたい。

(河合委員)

先日、社協主催の精神保健福祉ボランティアの養成講座に行き、参加者に話を伺ったが、きっかけとしてボランティアに興味があり、精神障害者の方の傾聴ボランティアにつながるこの講座を受けたとのことだった。

この講座を受けてみて少し自分には荷が重いと感じた、もう少し簡単な他の活動ならできるかもしれないという意見があった。一つのきっかけとして講座に参加し、その先の他のいろんな活動につながることでできたらそれでいいと思った。

日頃から社協の地域福祉コーディネーターともっと連携していく必要があるなど実感しているので、今後はそうした講座の受講者のフォローやそこで繋がった方を、さらに新たな活動に引込んでいくような体制の強化が必要なのかなと考えた。

(委員長)

すでにいろんな養成講座があるので、あえて何か新しいことをするよりも、養成講

座を1つの機会として捉え、いかにその他の活動に興味関心を持って繋げていけるか検討していくことも、論点の1つだろうと気がする。

(尾崎委員)

自分もファシリテーターの養成講座やサブスタッフ養成講座も受講して、福祉やファシリテーターについて勉強し現在の民生委員活動に役立っている。

また民生委員の活動として対象者の自宅に伺うが、繋がりにたくない、出たくないという方もいる。社会と繋がりたい方ばかりではなくて、今の社会がこういう不安定な時代なので、チャイムを鳴らしてインターホンに写っていても出てこない。75歳の方を訪問しても居ない、元気で働いている方が多い。なので今後は訪問する対象を考えなきゃいけない状況にある。

また最近、地震等による災害が多くなる中で、関連死が多いと思う。災害の後に避難所に行っても知らない人ばかりで、もし仮設住宅等に入れても気持ちの面で辛くなると思われる。

会話がなくなることが多いとさらに出にくくなるので、1人でいい面倒くさいというような方と、いかに普段から繋がりを作っておくかが大切だと考える。

災害等で何かあったときに、この人どこかで見たとか、地域の人だとか顔が分かるだけでも励みになる。まずは普段から公園を散歩しようとか促し、まずは1歩外に出てもらい地域の方を見かけるだけでもいいので、少しずつその方のペースでそういう関係性ができれば、繋がりが出来てくると思う。

(委員長)

まさに民生委員だからこそ感じているところだと思う。

毎回きた包括で頑張っている防災は、日頃から外出しない方でも関心があり、ちょっと聞いておかなきゃいけないなどなってくるが、それでも外出したくない方はなかなか外へ出てはこない。

そういう方たちに対して公園に散歩に行ってみようか、ちょっと外出たほうがいいんじゃないかというような声掛けや、そういう方たちが少しでも繋がっていける状況を作るのはまさに防災だと思し、そうゆう方が実際に外出したときに、ここが避難所ですよという情報を伝えるだけでも啓発が出来ていると思う。

(尾崎委員)

民生委員として訪問するときには、防災のことや避難所のことより、主に高齢者のサービスの案内を中心にポストインしたり、お話しをしたりしてきた。地震とか災害が多くなると避難所ぐらいは覚えておいてもらうことも大切だと思うので、訪問した際に避難所等の案内が出来る資料を行政の方からもらえるとありがたい。

(委員長)

防災についての何か案内はあるのか。

(事務局)

地域安全課に適した案内があるか確認する。

(千田委員)

市から防災資料が全戸配布されてるはずだが。

(尾崎委員)

民生委員が既に配付しているものは全部が冊子になっていて、配布するものの情報量が多いので対象のお宅に行っても案内が出来ていないと思う。別途、高齢者向けの防災のみのリーフレットがあると思うので、その辺も確認いただきたい。

(事務局)

地域安全課に尾崎委員からそういうご意見があった旨を伝えしておく。

(委員長)

一目ですぐ分かるものがあればそれを活用するし、なければ作成するかを検討していただくところも必要かもしれないが、まずはどういうものがあるのかの確認をお願いしたい。

(鈴木委員)

前原2丁目会では避難所の説明や防災関連の情報を細かいところまで色々調べて自主防災newsを約3ヶ月ごとに発行している。ただ町会の中の町会員は半分しかいないので、自主防災newsを市民掲示板に貼ってもらって周知している。

あと、大事なのは災害のときに1人で避難所へ逃げられない方が支援者に助けってもらうための避難行動要支援者支援事業だが、それを行うためにはどうしても周りの方や近所の方との日頃のコミュニケーションが必要になる。

なのでいずれにしても町会の中のコミュニケーションを深めるにはどうすればいいのか、何かイベントをやっけていこうと考えるが、なかなか町会の運営者も高齢なので乗ってこないのし、1人で何かやるのも辛い気がする。

そこで避難行動要支援者支援事業の運営に関しては、包括の方の支援が大事だなあという気がするのでよろしくお願いしたい。

(松村委員)

地域安全課防災係では色々資料を作っている。また、できるだけいろんな場で幅広い層の方に防災意識を高めてもらうために、土日祝日問わずいろんな地域のイベントに参加し手伝っている。非常に頑張っていると思う。

ただ本当に尾崎委員がおっしゃる通り周知がとにかく難しく、この資料の①②③の中で②については多少のノウハウがあるが、①③がとにかく難しい。

そして意外とこの①番に関していろんな講座や他の団体の活動などを、いろんな方法で周知しても、必要な方に伝わっていない。

町会防災会支援については、圏域内の町会防災会の防災だよりなどをLINE等で流しているのと、少し反応があることもあるが、それでも中々難しい。今余りにも情報過多な時代なので、どういう方法を使えば情報が届くのかを日々考えている。

その方の状況や生活習慣で、アプローチの仕方が全然違ってくる。包括では比較的若い世代からの活動先の情報が欲しいという相談はほとんどなく、なのでそういう層に対してどのようにアプローチしていくかを考える必要がある。

またシニアの方は比較的自身の介護保険サービスの利用をきっかけに、介護保険だけでは足りない部分として地域活動を紹介するが、実際の活動先になかなか1人では行かない。

情報提供だけではやはり75歳、80歳以上のシニアをつなぐのは難しいと思う。

あと活躍されてる方に地域デビューした年齢を聞くと、55歳から60歳ぐらいだったと言う方が多かった。参加団体に参加できることと、その活動を担う方になれるのとはまた別の話でどちらも必要だと思う。

(千田委員)

包括の方に伺いたい、先ほど地域にサロンがあればいいという話があった。地域で歩いて通える範囲の通いの場のメリットは2つあると思うが、その中でどっちに注力すべきなのかを教えてほしい。地域のサロン等を継続させるのが緊急の課題なのか、活動内容は何でもいからサロン等に出掛けて来て欲しいということなのか、その辺を分かれば教えて欲しい。

(久野委員)

もともと活動場所がない地域で孤独死があった。その孤独死で亡くなった方が活動場所を越境していたことがあり、これをきっかけにこの地域に新規の活動場所を立ち上げることになった。実際に来ている方は近所の方ばかりで、散歩の途中で来る方や送迎車が自宅前に来るデイサービスは行きたくないが、自分で歩いて来れる場所だから来るという方もいる。要するにデイサービスの送迎車が自宅前に停まっているのを近所の方に見られたくない方もいる。

にし圏域の貫井北町5丁目に関しては、地域の土着の活動場所があってもいいのかなと感じる。今回のきっかけがあって貫井北町5丁目に徒歩圏内で通えるサロンを1つ作れたことが良かったと思う。

また別の方でご主人を亡くした奥様がすごく落ち込んでいて、そのご主人に係っていた訪問看護のナースが気に留めて、奥さんを励まし活動につなげてくれた。奥さんはラジオ体操協会の会員の方だった経験を活かして、落ち込んでいた気持ちを奮い立たせて活動している。この訪問看護の方の声をかけがきっかけだった。

(委員長)

きっかけもそれぞれで中には個別対応が必要な方たちもいるが、個別の状況をアセスメントして、全て個別対応していたら第二層コーディネーターの業務量が多くなりやっていけないと思う。

だからこそ、全体としてどう対応したら良いかななどの情報提供の仕組みや、情報提供後に自ら動けるような仕組みをどのように作るかについて話し合い、地域デビューガイドや応援ブックなどを作りつつ、それでもだめだからお元気サミットなどで、活動団体の紹介や、活動者と参加者のお互いの交流の場を作ってみたが、まだ足りない状況なのでより一層の工夫が必要だと考える。

今までやってきたことの検証をしてバージョンアップすることや、人から必要とされるということに対するやりがいを感じる国民性から、この部分で活動の手伝いをお願いしたいという関係性を構築することができると、活動に参加してからの関係性の循環が生まれやすくなるし、定着をしていくと考える。

できる限り早い段階の退職直後の方に社会参加講座等で啓発できるといい。また、社会参加するうえで自分たちが得意としてるものが何かわかると、そのあとの活動に繋がっていく気がする。

今年度はどちらかというとも成果を再度確認していきながら、すでにあるものをバージョンアップすると共にまだ残る地域課題等が何なのか明らかにし、忌憚ない意見をいただく形で進めてきた。

たくさん話し合ってきたことが、来年度に繋がってほしいと思うので、来年度はこれまでの議論を踏まえながら検討できればと考えている。

特に第2層のコーディネーターの方々が思う部分について意見をいただき、よりピンポイントで求められる社会資源や仕組みを含めて整理をして、来年度に向けて話合っていければと思う。

(千田委員)

また6月に開催する地域デビュー講演会とお元気サミットでの地域デビューに関する事業を年2回開催することを基本とするなら続けて欲しい。

また、参加者がちょっと立ち寄るのではなくて、本当にニーズのある人や退職前後に何かをしたい人が集まってもらうのが一番だと思う。せっかくやるのであればそういう目的で来て欲しい。

(尾崎委員)

最近シルバー人材センターに行く方がすごく増えていて、中には週に2、3回行かれる方もいるようだ。応援ブックなどでの地道な啓発や、人の役に立ちたいとか、やっぱり支える支えられる活動をしたいなどの傾向があるのかなと思う。

(委員長)

そういうふうには何らかの形で成果が見えてきたというのは、とてもありがたい。もちろんいろんな要因があるのだと思うが、これまでの結果として見えてきたところだと思う。

(清水委員)

先ほど久野委員の話を伺い私たちに何ができるのだろうと思っていたが、そういう支援の方法が必要なかと分かったのと、松村委員がおっしゃってた通り、この人に届かなかつたら誰に届くんだろうと本当に私もそう思う。また、そういう機会があれば必要な情報を周知する等の大切さを、訪問看護の部会で共有し情報を広めて訪問看護の方からも協力していきたい。

(委員長)

いろんなところからちょっとずつでも、周知して広がっていくっていうのはとても重要なことだと思う。今までの活動の成果を確認することができて有意義な時間になった。

3 その他

事務局より次回協議体の開催予定の案内を行う

4 閉会